

Shake Hands 第133号 2023年3月31日発行

常滑国際交流協会 〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内
電話・FAX：0569-34-4797 メール：tia@japan-net.ne.jp
URL：<https://www.japan-net.ne.jp/~tia/>



2024年度 第1期 英会話講習のお知らせ

常滑国際交流協会では、私達に一番身近な外国語である英語を使って国際交流を行うことを目的として「英会話講習」を実施しています。下記により2024年度 第1期の受講者を募集します。

記

日程：毎回水曜日、(全10回)

2024年 5月8日、5月15日、5月22日、5月29日、6月5日、
6月12日、6月19日、6月26日、7月3日、7月10日

時間：午前10時～12時

場所：常滑商工会議所 東館2階 会議室

講師：(H. E. ART 英会話) Jason Ford 氏 他

募集人員：20名(定員になり次第締め切ります。)

参加費：15,000円

テキスト：今回から新たに受講の方はテキスト代が別に必要です。

※英会話講習に参加の方は常滑国際交流協会の会員になります。

詳細は下記までお問い合わせ下さい。

お申込み・問合せ：〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内 [常滑国際交流協会](#)
(事務局の開設は火・水・木曜日の午後1時～4時です。)

電話・FAX：0569-34-4797 メールアドレス：tia@japan-net.ne.jp

メールでのお申し込みは上記アドレスへ氏名・住所・電話番号・メールアドレスをご連絡下さい。

初めてのベトナム体験

鯉江正廣

3月6日から5日間ベトナムへ行ってきました。名古屋の旅行会社 JFT 主催の「日本の祭典 2024 イン ホーチミン」に参加し和菓子作りのワークショップを担当しました。この JFT という会社は「Japan Folk Festival」の略称で日本の伝統文化を海外に紹介を主業務としており、私は名古屋で海外の人向けの和菓子体験講座を何度か開いております。

コロナ禍以前にはほぼ年一回海外主要都市へのツアーがあり、私は 2018 年にはチェコのプラハへ行きました。参加費もが要るので最初少し迷いましたが、今回はセントレア発着で、地元民としては参加しかないと決断しました。一行は約 40 名。ステージ発表の内容は八事山興正寺の僧侶に声明（しょうみょう）、雅楽グループ、和装、活け花など。ワークショップは将棋の棋士、藍染めなどでした。

ホーチミン市は旧サイゴン市です。空港はあのタンソニット空港です。市中心部の高層ビル群と昔からの商店が共存し不思議な活気があふれています。特にバイクの洪水には、よくあんな車間距離で接触しないものだと感じます。（写真1）



実演は二日間で、郊外のスレコ日本語学校と市内中心部のサイゴン大学でした。スレコは日本での就業を目的とする全寮制の学校で、その日は学校祭のような飾り付けがされていました。

和菓子体験は私が持参した“ねりきり”（密封、熱殺菌した材料）を使って生菓子づくりを一人一個で10人ずつで5回を考えていたのですが、三々五々生徒や先生が来て次々の対応になり大忙しで、予定時間の半分ほどで材料切れでした。

サポートに入ってくれた二人の女子学生はまだ日本語が十分でなかったのも想定外でしたが、一生懸命手伝ってくれて大感謝です。皆さん礼儀正しい人ばかりでした。



次の日のサイゴン大学では列になっている学生を受付で区切ってくれていたの少し落付いた感じでした。（写真2）こちらは英語が通じました。この日予定より早く材料切れでした。やはり国内でやるより遥かに疲れます。

ベトナムと言えば、私の世代にはあのベトナム戦争です。同行した人達の中で若い人（30～40代）の中には、どうしてサイゴン市がホーチミン市になったのか、ホーチミンとは誰かを知らない人もいました。

ベトナムは観光を重視していて、街並みには活気があり、治安は悪くありません。バイクの洪水の中を信号の無いところで横断するには少し緊張しますが、相手から眼を離さない、急な動作をしない等コツをつかめば大丈夫。ただ、眼の見える人はどうすれば道を渡れるのでしょうか。車への物売りの少年や、戦争の負傷者なのか脚のない物乞いの老人を見ました。

ベトナムのバイク事情

ベトナムでは主な交通手段としてバイクが普及しています。2018年のベトナムでの新車販売台数が約338万台で、同年の日本は約33万台とその差は10倍。国民の86%がバイクを保有し車の保有率は4%だそうです。バイクの普及の理由は、まず所得に対して車の価格が高いことが挙げられます。次に日本ほど電車やバスといった公共交通機関が整備されていないことです。

その様な理由から、ベトナムの交通手段としてバイクが普及しています。バイクは日常の「足」として使われていて、主に125ccのスクーターやスーパーカブに乗る人が多い。

日本のバイクメーカーの割合は98.6%でホンダが79.3%、ヤマハ18.9%、スズキが0.4%を占めています。ベトナムで急激に普及した日本のメーカーのバイクですが、一時期中国製のバイクが進出し90%ものシェアを占めて、その頃日本製のシェアが急激に減少したことがありました。中国製のバイクは日本製の半分程の価格でしたが、品質に問題がありアツと言う間に売れなくなり、日本製がシェアを挽回しました。日本製は1) 品質—故障しない。2) アフターサービスが良い。3) コストパフォーマンスが良い。4) 高品質な整備などが評価された結果でした。

交通ルールの違い ベトナムのバイクの運転免許は二種類しかなく、175cc以下までの「A1免許」と、175cc以上の「A2免許」のみ。50cc以下と電動バイクは免許不要、日本の原付免許の様なものはありません。車線は日本の左側通行に対して、ベトナムでは右側通行です。そして一番驚くのは至る所で飛び交うクラクションです。また、多くのバイクが走っているのでバイクショップの数が多く、バイクショップの他に屋台のような簡易的な店もあり、消耗品やヘルメットはどこでも買えます。

現在ベトナムのバイクは主に日本企業のホンダとヤマハの現地法人が製造・販売しています。

ホンダ：1996年設立。同社はベトナムのバイク市場の約80%のシェアを占めている。ベトナム北部のヴィンフック省に本社があり、従業員は9,315人。同社にはバイクや自動車部品の製造・組立を行う6つの工場があり、年間250万台のバイクと23,000台の自動車を生産している。ホンダはベトナムで25年間以上の実績があり、バイク製造及び販売の分野ではベトナムのリーディングカンパニーとして認められている。

ヤマハ：1998年設立。ハノイ市に本社を置いている。同社の主な事業はヤマハブランドのバイク及びバイク部品の製造及び販売、メンテナンスサービスの提供である。ベトナム国内で4,500人以上の従業員を抱えており、ベトナム国内で2つの自社工場と4つの支店を展開している。同社には全国で1,000店舗以上の販売店があり販売店チャンネルを展開しておりベトナムのバイク市場でホンダに次ぐ2番目のシェアを獲得している。バイクの年間販売台数は非公開。

